足利結
手際の
巻
十番

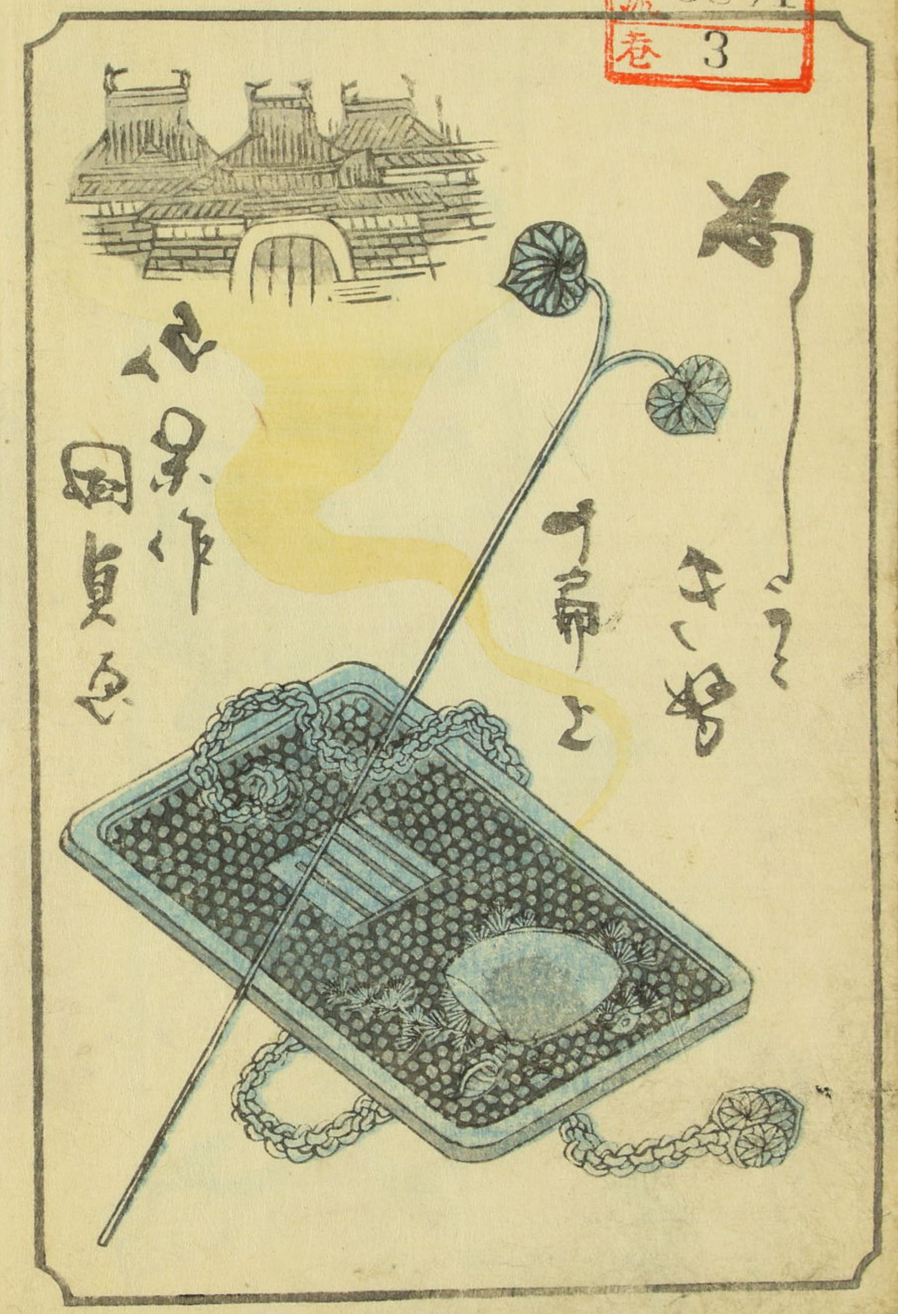
作者 山崎屋愛象

仙果作
国貞画

へ13
3841
3

御
慶
頌
外題四五図
丁寧と

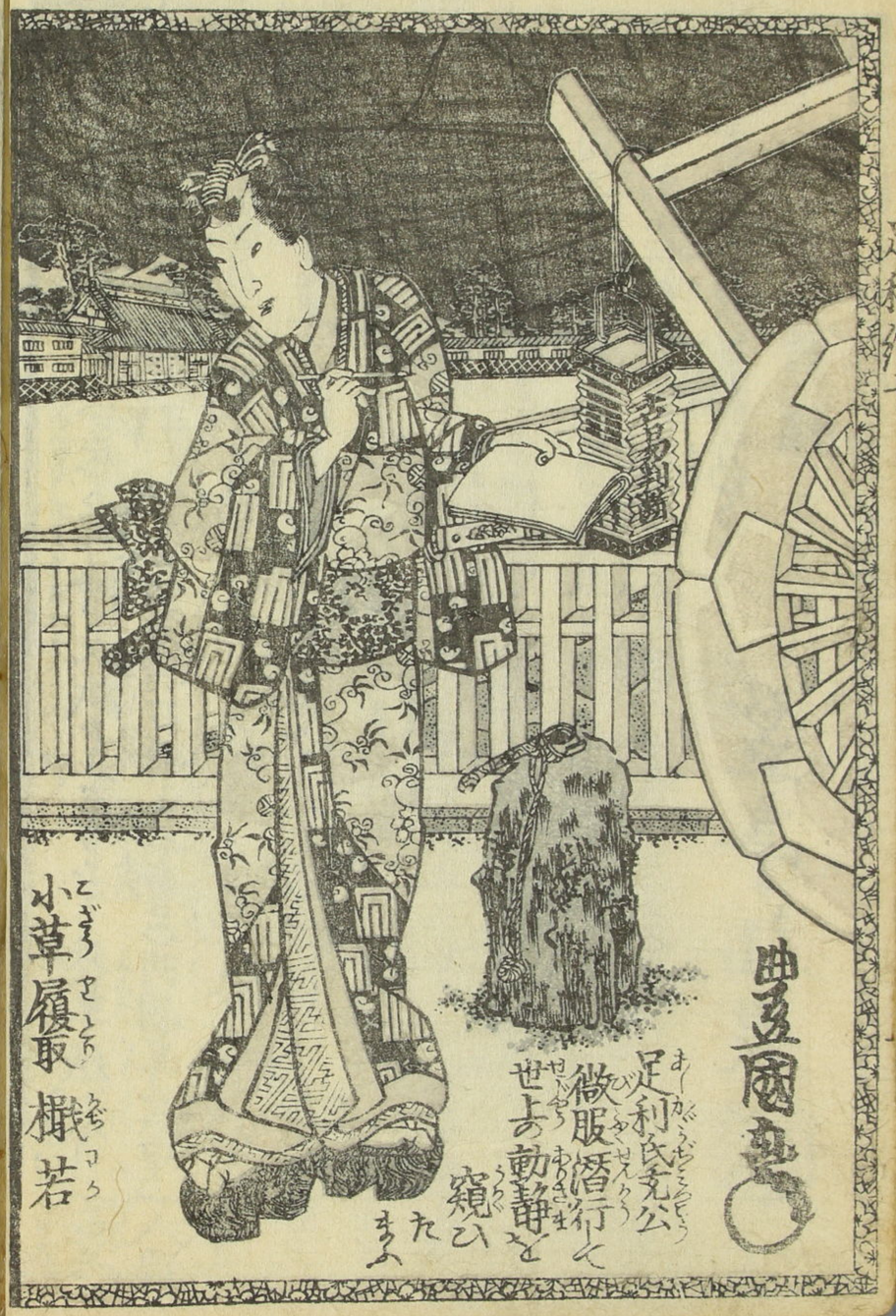
門 へ13
號 3841
卷 3



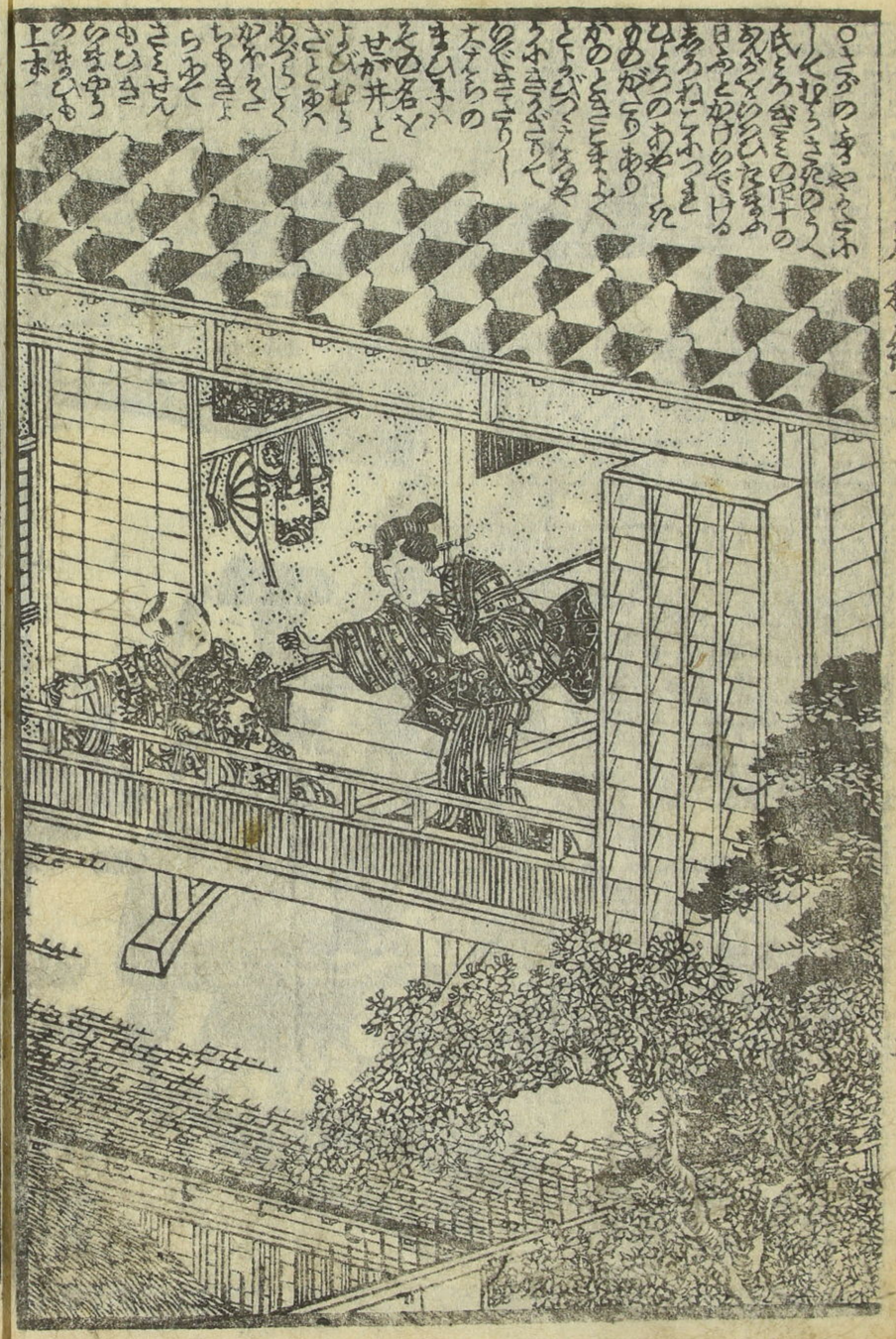
眉へ顔面の飾り合巻ふ錦繪表紙を装るゞ〜此草紙歳月を重
更て中老の美人ヨマく眉の有のハ明石姫と二會の両個耳其中一人の
十四や五で早初産とハ情り新しく彫櫻木ふ花くくハ其詮りと
子孫可ても半元服是當代の風俗るゝねど古未婦人の眉と剃ハ
自在ふ画ん為ふーて下流い眉つゝるゞと伊勢家の書大上らゝふ見えるる
も生眉剃ハ反證と古例を些と引眉ふ河古木も未来で再勤歌舞
のササの面影ふ画ゝゞ便画工の案ゞ有ゞ中ふも小一編ゆめぐゝこの引
續きおれゆもゝくまゞくもるけるべゞるゝこの眉も嘆ぬゝゝ眠氣へきゝと
満潮ふ月の明石の宗入ゞ爰の話の蓬莱山亀戸の茅ふ罪と弟七
かゝゝゞ虫癪を犯ひ侍ら

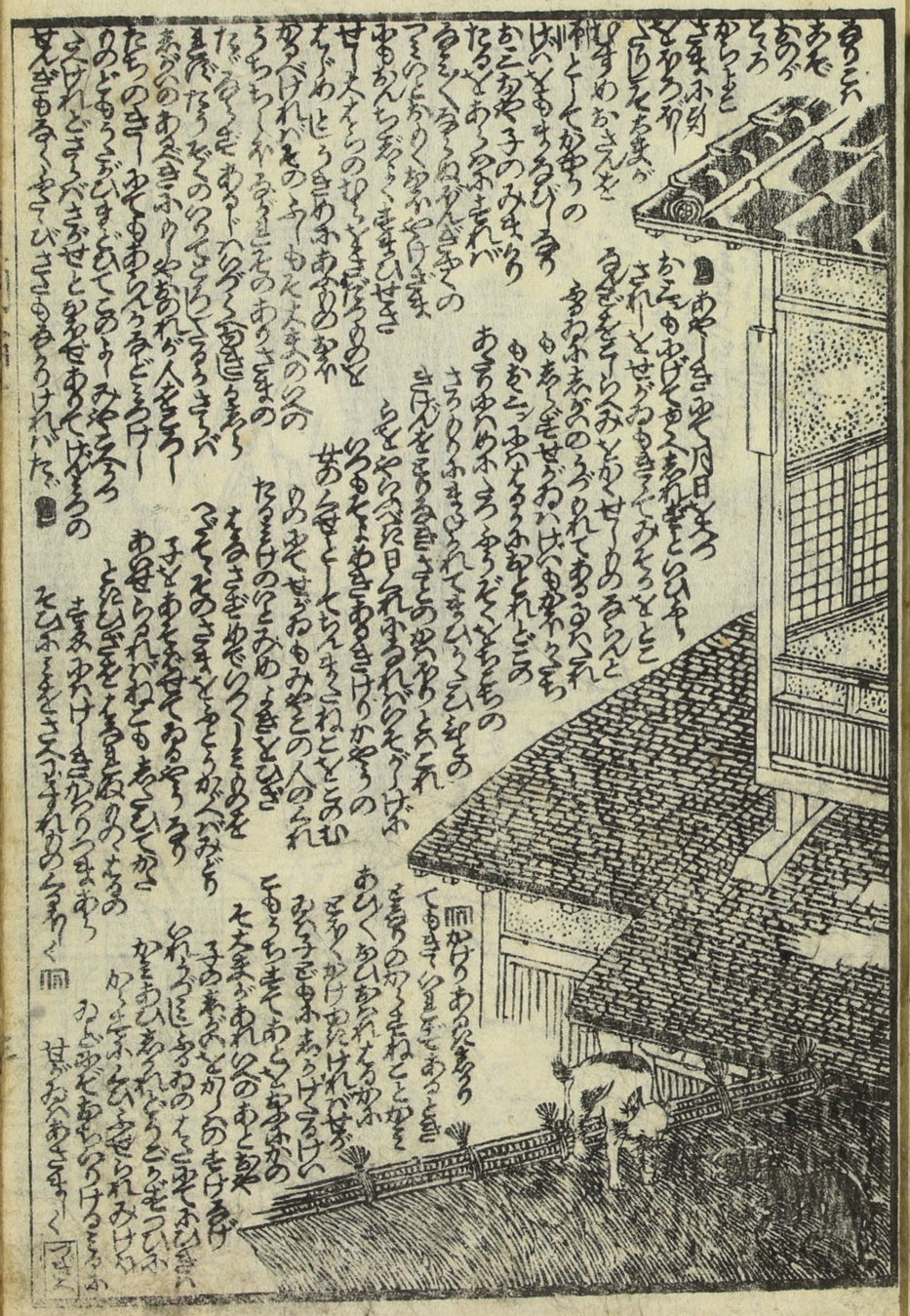
壬子新鐫

笠亭仙果


足利氏光公
微服潛行て
世上の動靜を
窺ひ給ふ
小草履取 機若

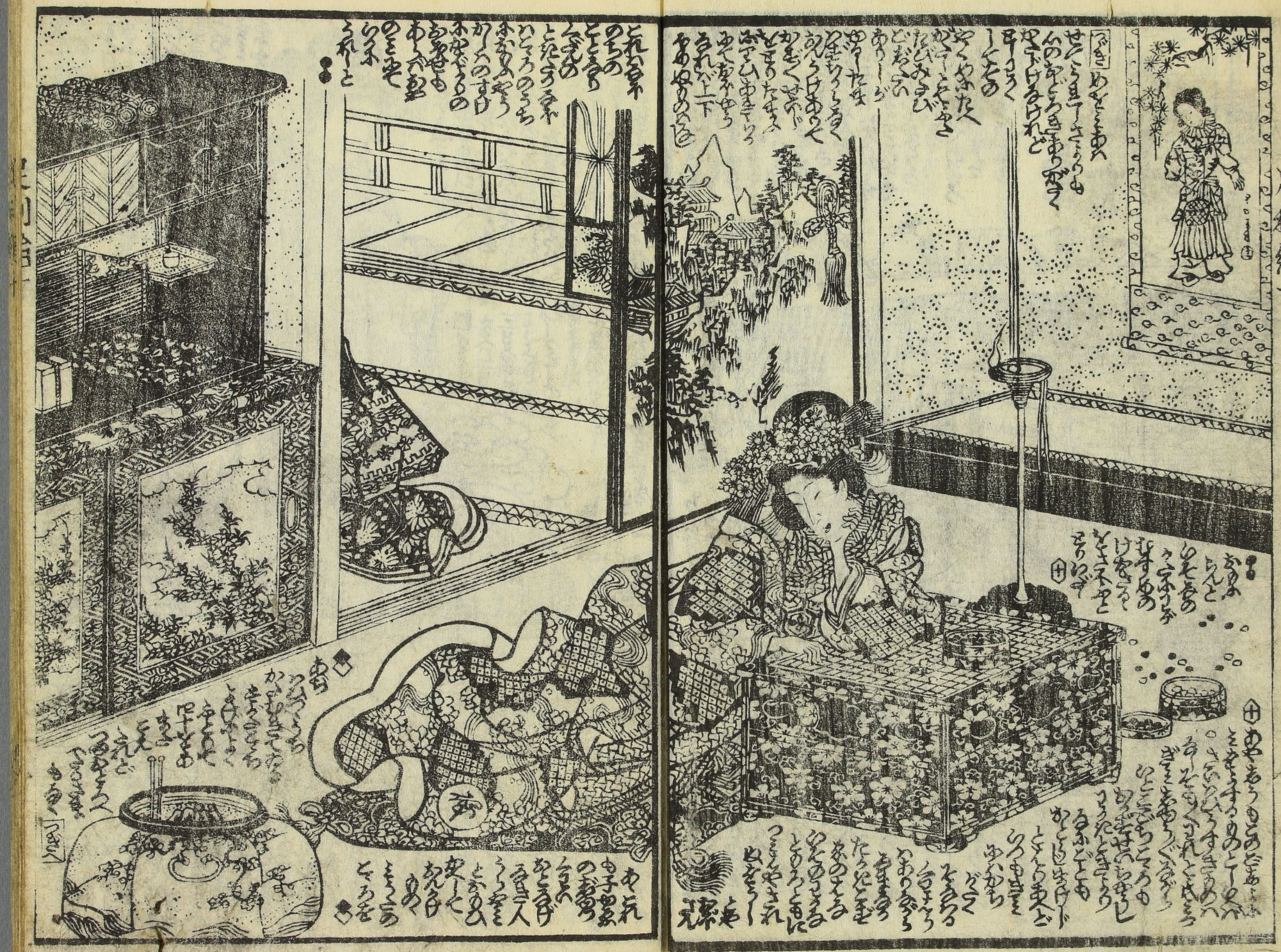
後梅津浮之丞
仁木良清女
後綱手と改む
浦船





二の巻へつづく

二の巻より



三葉の前

新刻
校正

御江戸昌平町鑑

朱字細註横本
全二冊出版
半紙摺薄用摺

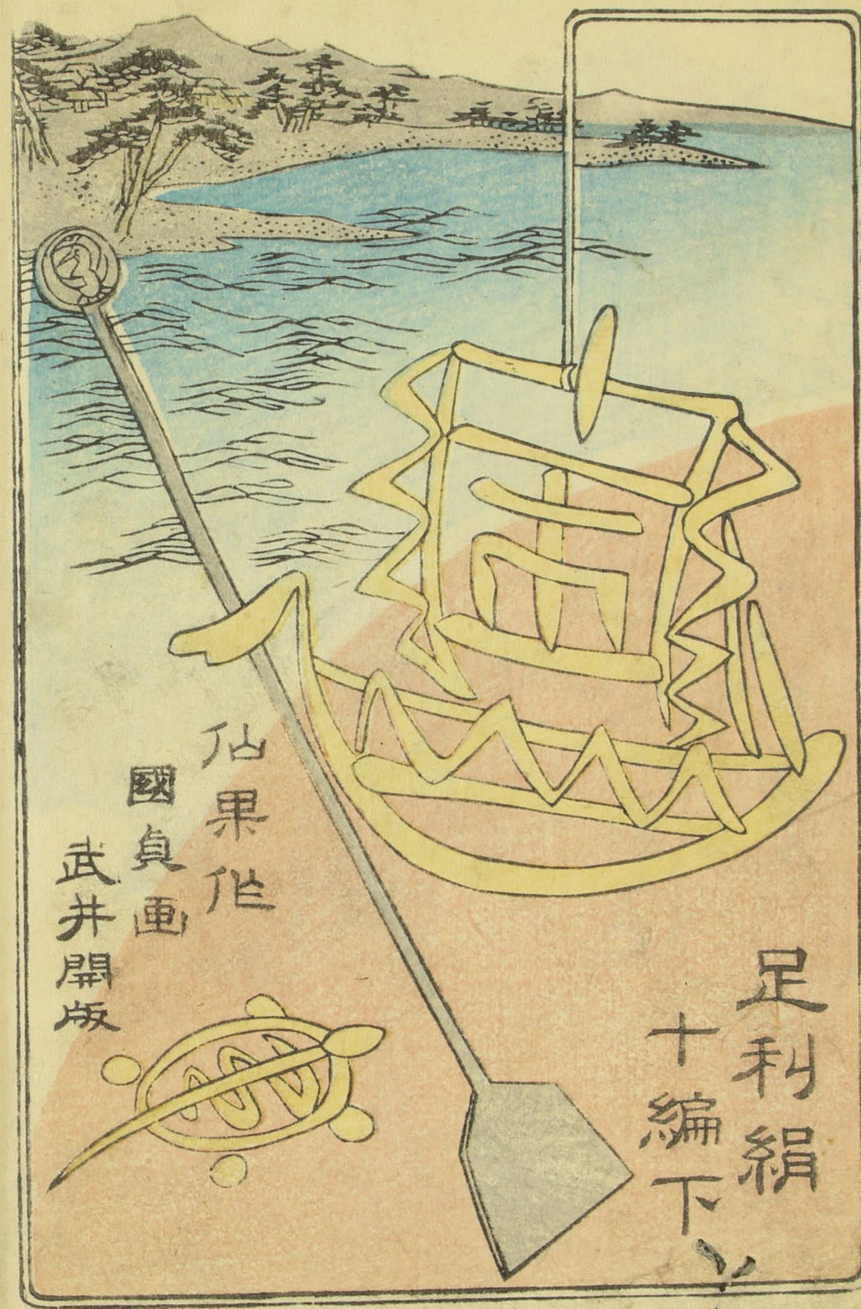
嘉永五年新彫

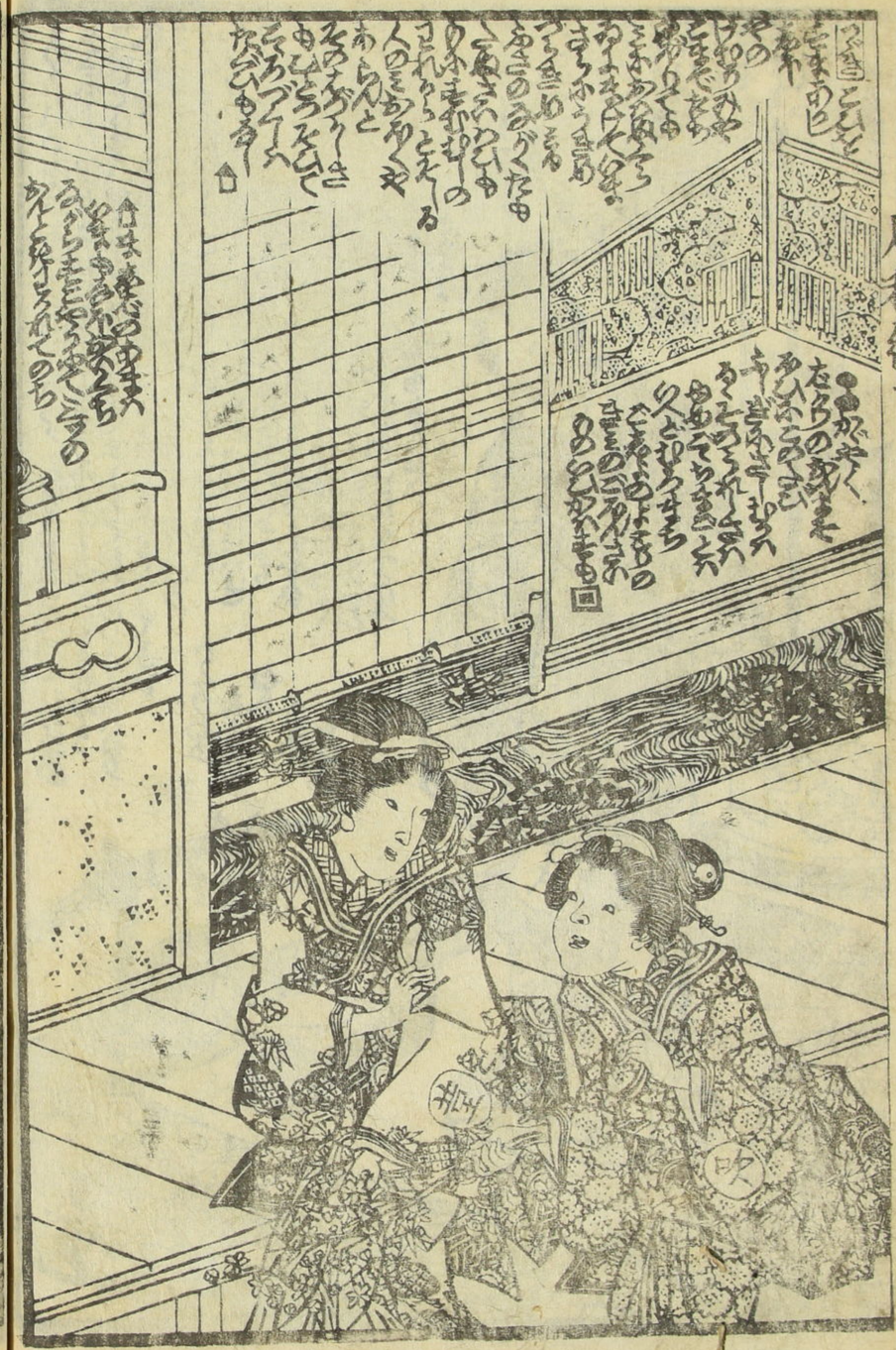
教訓浮世めぐ私　全三冊　万亭應賀作　溪齋英泉画

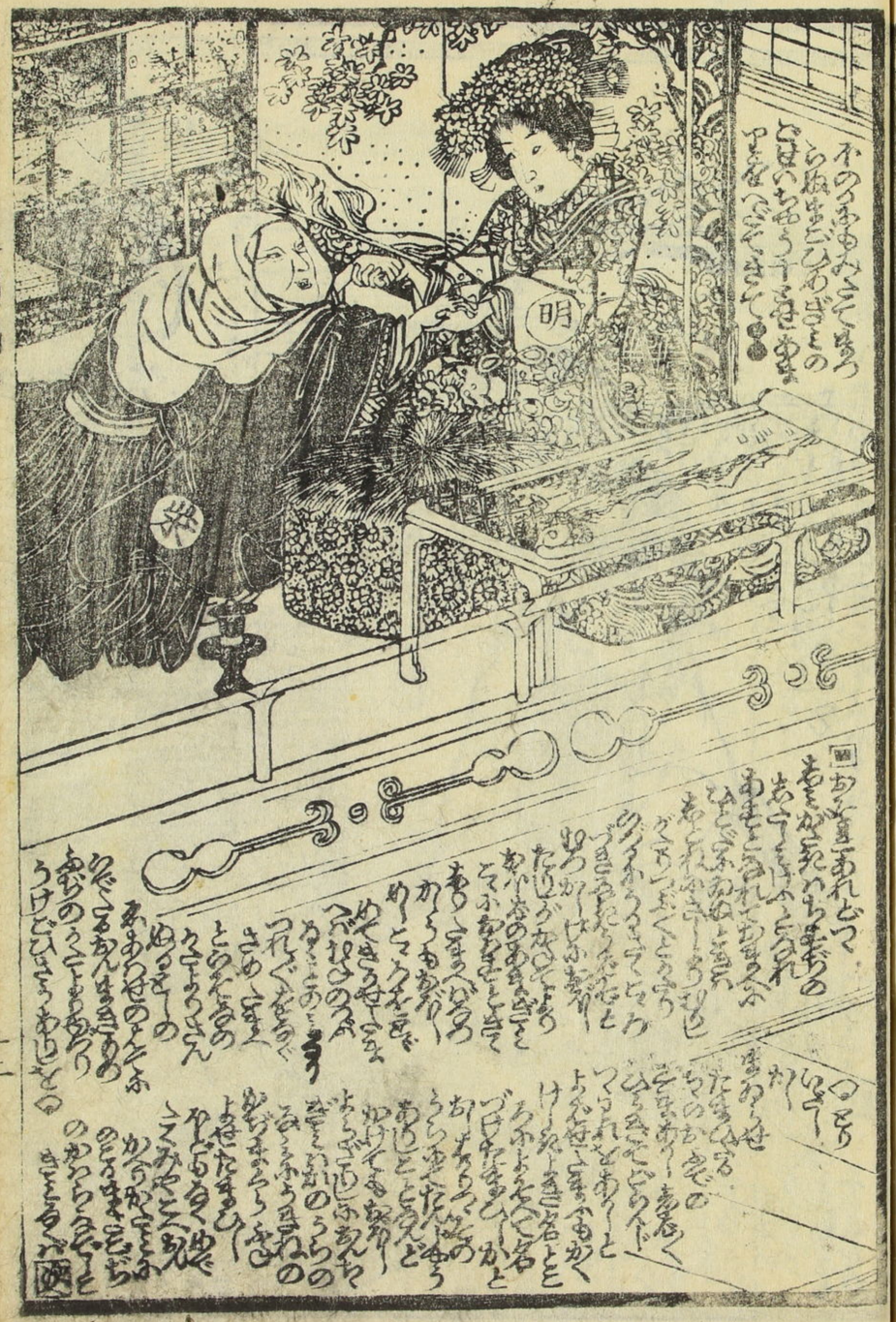
兩筋戀わ山道　全二冊　万亭應賀作　一勇齋國芳画

亀鑑浦嶋草紙　初編　笠亭仙果校合　柳齋琴繁作　錦朝楼芳虎画

刊行書肆　東都　錦林堂


足利絹
十編下
仙果作
國貞画
武井開版


吹
松


明
栄

嘉永五年壬子新刊

足利絹手染紫

笠亭仙果作
一陽齋豊國画

○十編より十四編まで當子春發兌若菜の上第十二編より
全くそろう十三編より同下いくさのあらひ姫柏之助恋愛の
こんこん人情の極意をかきあらせ彩色の妙巧見い者ども紙大雀れの

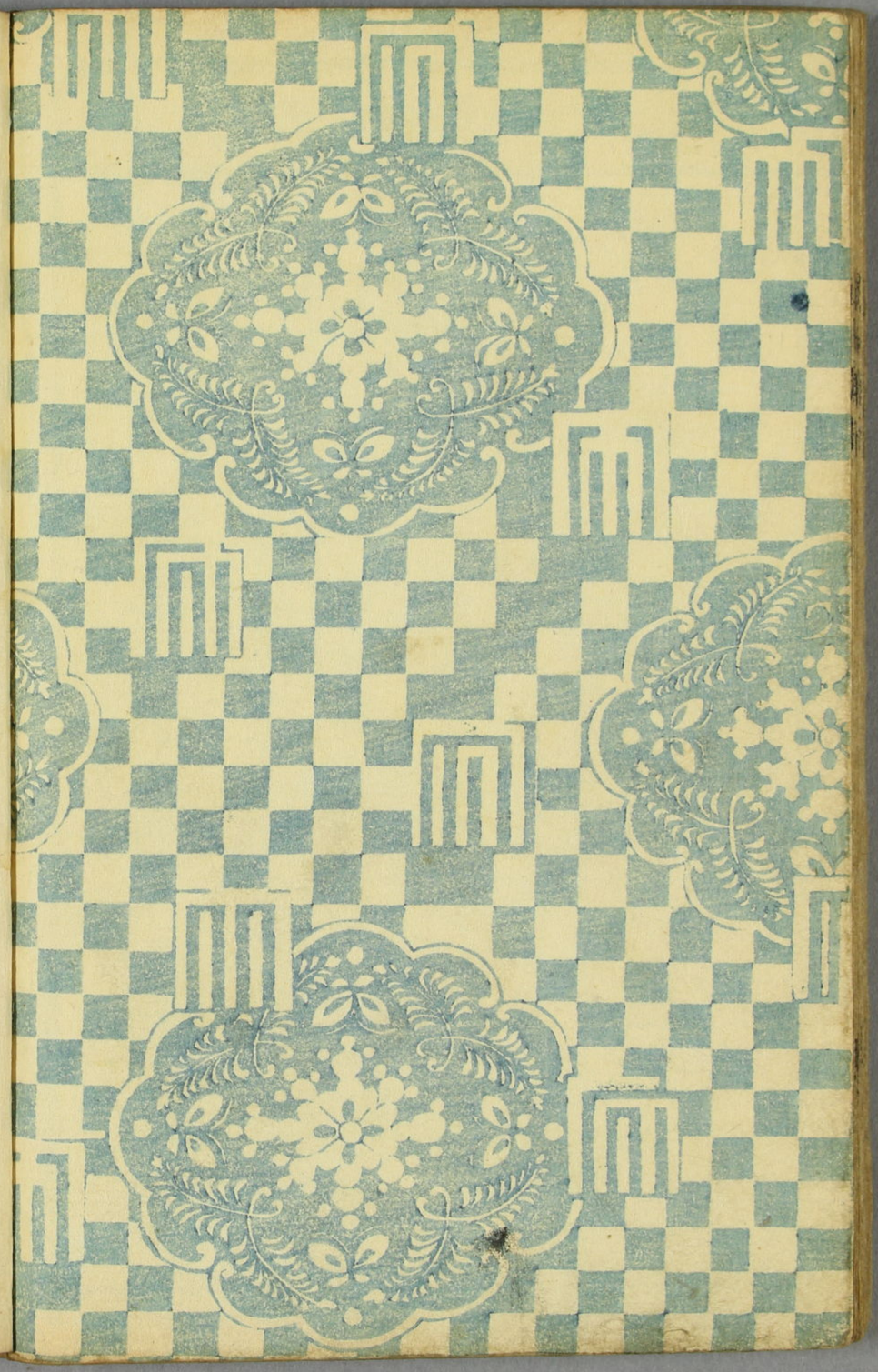
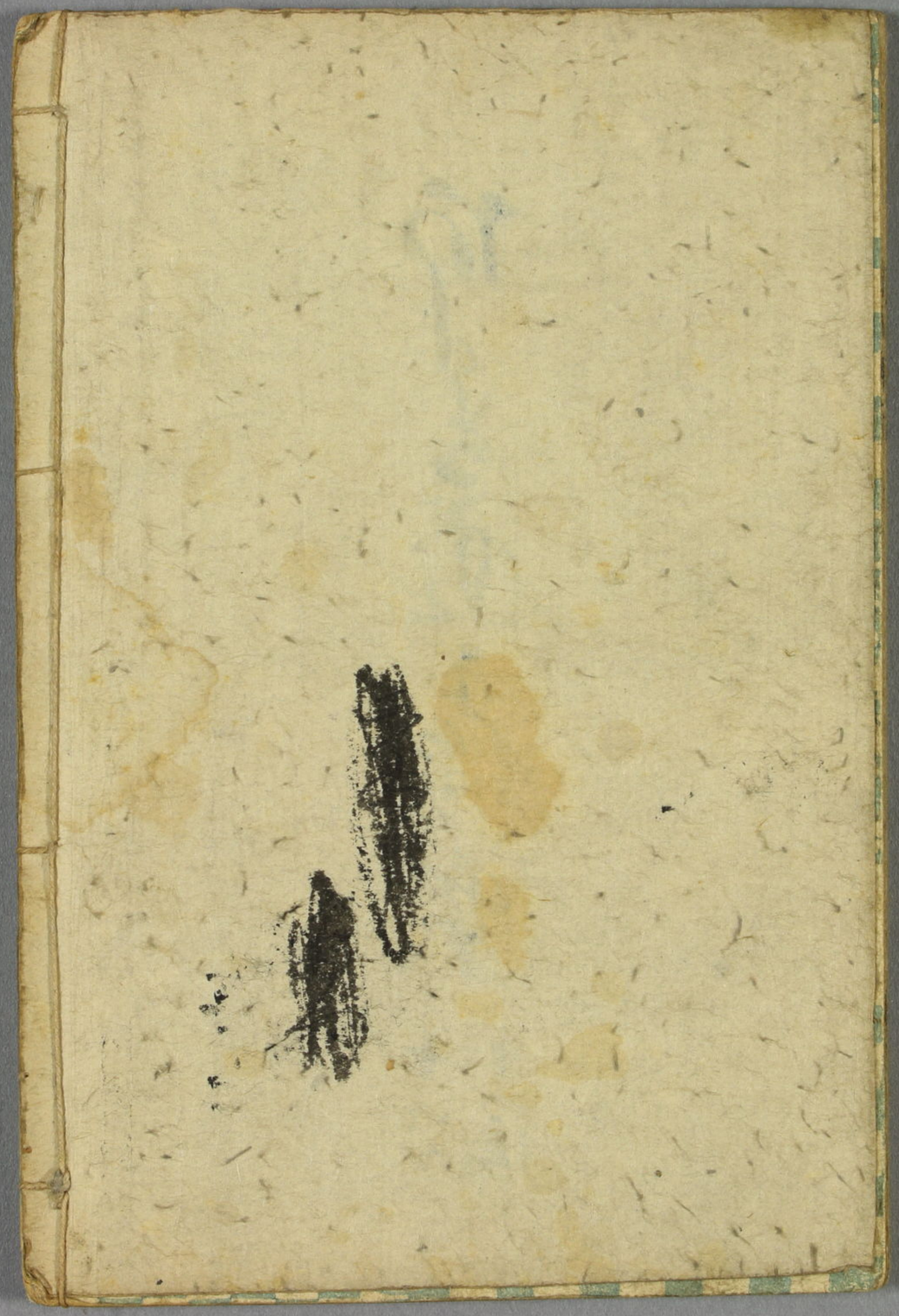
極彩色 てりかぎぬ染上り大雙六

袋入一枚摺

こんなむつかしいゆうりは芸者やあるくらいなら芸者ど者希よう

東山奇談 娚娜櫻

種吉作
芳房画

右初ゑ西条屋彩延引仕の尚妻
おそくも妻出し中は

東都神田鍛冶町二丁目
太田屋佐吉謹白